

令和3年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

安定した蚕作と省力化による高品質な繭生産の実現

○氏名又は名称 五十畑 茂・五十畑 啓子

○所在地 栃木県小山市

○出品財 経営（繭）

○受賞理由

・地域の概要

小山市は、栃木県南部に位置する。気候はやや内陸性をおびた太平洋側気候を示し、夏と冬の寒暖差が激しい地域である。東西南北に鉄道路線も伸びており、交通の要衝地となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

五十畑茂氏は、昭和41年に就農し、養蚕を柱とした複合経営を行った。飼育室の増設などにより、生産性向上と規模拡大を図るとともに、地域の仲間と連携し技術を磨いた。現在の経営耕地は、桑園136a、畑109a（ゴボウ71a、春大根38a）水田27aの合計272aとなっている。養蚕は年4回飼育を行っており、5年間の平均繭生産量は、平均1.9tと安定した生産量をあげている。

・受賞者の特色

（1）高度な育蚕技術の実現

繭の解じょ率の向上のため、自動温風暖房機の使用により蚕室の温度を適正に保ち、上蔟後から繭出荷までは通風換気を徹底している。収繭時には、自動収繭毛羽取り機を使用し省力化を図り、自家選繭を徹底することで、純白な繭を生産する技術は最高レベルに達している。

また、蚕病防除の徹底のため、蚕の生育ステージに応じて飼育施設を分ける方式を実施するとともに、混合液による施設等の洗浄・消毒を実施している。上蔟後は、直ちにショベルローダーで残渣を運び出し、洗浄消毒を行うことで、育蚕の安定化を図っている。

（2）桑園及び畑作の生産性向上

桑園管理の省力化を図るため、条桑刈取機を導入し、採桑労力を軽減している。

また、近隣の畜産農家から牛糞おが屑たい肥を入手し、養蚕飼育の残渣と混合させ、桑園やゴボウ・大根の畑に投入し、収量の向上と安定化を図っている。

（3）女性の活躍

啓子氏は、JAおやま養蚕部会女性会役員を務めている。また、令和2年には「絹消費拡大運動」に積極的に参加し、肌に優しい絹製品の良さをPRした。

・普及性と今後の発展方向

五十畑氏が実施した蚕病防除は、大きな成果をあげており、他地区へ波及している。また、養蚕と露地野菜を中心とした複合経営は、畑作地域における収益性の高い経営モデルとして確立した。

今後は、日本絹文化の原点である養蚕の灯を消さぬよう、良質な繭生産を継続するとともに、希少価値の高い蚕を使用したブランド化も視野に入れている。